

State Pandemic Preparations Vary Widely KFMB, CA

各州のパンデミック・インフルエンザ対策整備 状況には大きな差

2006/12/18

<http://www.kfmb.com/stories/story.73978.html>

パンデミック・インフルエンザが発生した場合、簡易ベッドや医薬品等を満載したトレーラーがコロラド州中の秘密の場所に待機し、学校体育館における臨時の病院設立に備える。

ワシントン州西南部地域では、パンデミックの間、ドライブ・スルー方式でワクチン接種を行うことを考えているが、今秋の季節性インフルエンザ接種の経験から言うと、整理のための交通警察が必要なようだ。

もしアラバマ州でパンデミック・インフルエンザの間学校が閉鎖されるとしたなら、学生達は公共テレビを通じて学ぶことになる。ダラス市では市の図書館員が、発病した「911 operator」の代わりにを務める予定になっている。

各州と地域社会は、ブッシュ政権のパンデミック・インフルエンザ対策の強化の求めに応じて苦慮しながら、地域によって様々な創造的対策を展開しつつある。

A P通信では、各州の対策準備状況を詳細に調べたが、州によりその状況は様々で統一性がない。

ほとんど半分の州では連邦政府の対策補助金の他に、対策用に独自の出費はしていない。

十分量確保できない抗インフルエンザ薬とワクチンの配分に関する倫理的問題が存在している。オクラホマの疫学研究者のブレット・コウセン博士(Dr. Brett Cauthen)はそれを強調する。"最も困難な課題がそこにある"、と同博士は言う。

いくつかの州では、連邦政府から勧奨されている抗インフルエンザ薬の購入と備蓄をすべきか、または連邦政府から十分量を得ることができるのではないか、と言った論議が続いている。

いくつかの州では、警備された倉庫に備蓄している他のパンデミック対策用品のリストを示している。例えば450万人分のフェースマスクを備蓄していることを、ニューヨーク州では誇っている。その一方、ウエストバージニア州では、行動計画の最終案の草稿中である。

"どのように各州では対策を立てているのか?、そして、如何にして我々はそれを知ることが出来るのだろうか?"、とCDCのパスカル・ワートレー博士は疑問を呈する。

"重要であるが、実行が非常に困難な対策が多く存在している。これは本当の意味でチャレンジなのだ"。

実際、政府がこの数週以内に各州の対策状況を確認するが、当局者達は、最も重要な課題を解決できている州はほとんどないのではないかと、予測している。

・どのようにして食料店に商品を備蓄しておくか?

・公共事業従事者が、水道や電気の配給を維持するために、彼等に提供する抗インフルエンザ薬は十分に保存しているか?

・もし学校が閉鎖されるとした場合、地域の企業界は従業員が子供達の世話を家庭で行うため、従業員の欠勤を許すだろうか?それとも首にするだろうか?

・連邦政府がワクチンと薬品の配給分を、各州に空輸した場合、それは安全に保管され、強奪されることなしに患者に届けられるだろうか?

"5000の自治体に全力を尽くして問題を解決してもらう以外、良い方法は思い浮かばない"、と連邦保健福祉省の危機管理対策主任のウィリアム・ラウブ博士は語る。

"ある州でうまく運ぶ対策が、他の州でも通用するとか限らない"。

容易に変異するスーパー・インフルエンザウイルスが2,30年毎に世界で流行する。前世紀は3回流行した。

最悪の流行事例は1918年のパンデミックで世界中で約5000万人死亡した。米国内では50万人死亡している。もしこの1918年のパンデミックと同程度のものが発生したなら、米国内で人口の三分の一が発病し、190万人が死亡する可能性がある。

いつでも起きえる次のパンデミックに備えて、CDCは政府に対策を立てるように何年も前から言い続けてきた。この対策はH5N1鳥インフルエンザが世界中で発生しだしてからは、緊急を要する課題となった。2004年には29州だけが何らかの行動計画を作っていたが、現在は紙の上の草案を含めると全ての州で計画を作成している。

来春、連邦政府保健当局では各州に対してアンケート調査をし、それを集計発表する予定になっている。質問は保健問題だけではなく、地域社会が如何にして経済と社会機能を維持できるかという問題まで踏み込んでいる。

ラウブ氏は、決してそれは"摘発"ではなく、各州が結果に対して反応することにより、対策の遅れた州が、より対策が進んだ州をまねることが期待される、と考えている。

”私はそれにより全ての重要な対策がカバーされるだろうと確信している”、と同博士は付け加える。

現在、初期対策の課題として、病院での患者収容限界、タミフルの購入、学校閉鎖、そして如何に州が流行に対して行動をとるか、が挙げられる。

レイビ等のグループの研究では、半分の州でパンデミック発生2週間には病院での患者対応能力は破綻するとされる。それは1918年に発生したパンデミック程重度のものでなくともようだ。

A P通信が各州の担当者に行ったインタビューでは、保健担当責任者達は繰り返し、病院での患者対応能力は破綻するのは間違いはないが、それはベッド不足が最も重要な原因ではない、と言う。

”全ての患者を扱うだけの医療従事者がいない”とアラバマ州保健局のドン・ウィリアムソン氏が言う。

看護師不足や他の問題で、今日の病院は保有するベッドの6割に対応出来るだけのスタッフしかいない。パンデミックに陥った場合、これらスタッフは自身が発病したり、発病した家族の看護のために自宅にいなければならない。そのため病院へはやってこれなくなるだろう。

そのためいくつかの州では様々な創意工夫している。

コロラド州中の戦略的地点に駐車しているトレーラーには、計6500個の簡易ベッドが積み込まれてあり、学校の体育館、またはイベントホール等に、電力、水、そしてバスルームと共にセットアップ出来る態勢にある。

州ではこれらのベッドに横たわる感染者を看護するボランティアを募集している。さらに薬剤師から理学療法士まで、通常はインフルエンザ看護に関与しない保健医療関係者のマスターリストを作成している。

エルパソ郡では退職した医師達の電話バンクを作成している。市民が混雑した病院を受診すべきか、それとも家で安静にしているべきかの相談にのる。

ルイジアナ州では、親戚関係者が患者を看護するのをサポートするために訪問時間を拡大することや、回復患者に何らかの容易な義務を与えることを考えている。

カリフォルニア州では、今年1800万ドルの予算を計上して、3個の200床移動病院を購入予定とし、7800万ドルで2万個のベッドを含む医療用具を購入する。

考え方として、非常に重症な患者は入院とし、中等度の場合は家庭、そして中間型は学校やイベントホール等のベッドに収容すると、している。

病院内ではベッド以外にも不足は色々ある。例えば、ジョージア州では重度のパンデミックの間2万台のレスピレーターが必要と考えられる。州全体で現在は1500台しかない。当局は2000台の携帯用レスピレーターを購入したが、それらの耐久性に関しては不安感が持たれている。

パンデミックが生じてから、そのウイルスに適合したワクチンが製造されるまで数ヶ月は要する。それまでの期間、タミフルを中心としたインフルエンザ治療薬が重要な存在となる。世界のインフルエンザ専門家達は、人口の四分の一、または米国の場合なら7500万人分の抗インフルエンザ薬の備蓄を勧めている。

ブッシュ政権は4400万人分のタミフルを購入しつつあるが、各州の購入分と合わせて国家備蓄量とされる。

各州は残りの3100万人分のタミフルを購入する予定であるが、連邦政府は25%割り引いた価格で提供することになっている。

ほとんどの州は、少なくともある程度の量は購入予定としているが、現在議会の予算の承認を待っている段階とされる。

しかしながら少なくとも四州では、これら余分の薬剤を購入するだけの予算が取れるか分からないという。薬剤はスーパー・インフルエンザに効かないかもしれないし、または備蓄していても期限切れになるかも知れない、と消極的態度の理由を付け加える。

”それは役立つ可能性もあるし、また全然役立たない可能性もある”とアリゾナ州の保健局副局長のウィル・ハンブル氏が言う。州は連邦政府からの助成金100万ドルで、66000人分の薬(タミフル)を購入している。しかし同氏は、さらに州が購入するかどうかは分からないと語る。

ネバダ州は200万ドルの国からの助成金でタミフルを購入したが、さらに購入する考えはないようだ。

他。